就職活動応援特集

若手・中堅社員が語る

スケール感の大きな仕事を

タキロンシーアイシビル
土木資材営業部
東京土木営業グループ
髙宮　翔哉さん

■土木・環境・産業分野で活躍

入社当時はダイプラという社名でしたが、2021年4月にダイプラを含むタキロンシーアイグループ4社の事業再編・統合により、現在のタキロンシーアイシビルが誕生しました。おのおの特色のあるグループ会社が一つになり、営業担当としては多くの引き出しが持てることによる新たなソリューション提案や、新たな顧客先の開拓などの面において面白味を感じています。社会を見渡せば脱炭素、自然災害対策などさまざまな社会・環境課題に直面していますが、土木・環境・産業全般で総合的にその解決へ貢献・アプローチできるというのが、当社ならではの特色ですね。とにかくメーカー営業として活躍したい。人の役に立つ社会貢献性の高い仕事をしたい。この二つを軸に業界研究や志望先を調べた際、当社がぴったりハマりました。

■マルチに立ち回る調整役

入社後、オンライン講義にて社会人としてのビジネスマナーや心構え、営業スキルを学び、その後、工場研修にて自社製品のいろはを学びます。研修後には、先輩社員に同行する形で顧客先に訪問し、2年目から自分の担当エリアを持ちます。現在は、東京支店に勤務しつつ、栃木、神奈川、群馬、山梨を担当しています。顧客は官需中心ですが、商社を通じて民間案件にも幅広く携わります。営業といっても顧客との折衝のみならず、自社製造部門との調整、現場担当者との納期等に関する打ち合わせなど社内外でマルチに立ち回る調整役ともいえます。

メインで担当する商材はダイプラハウエル管になります。雨水排水管や道路横断管などさまざまな分野のパイプラインで採用実績があり、博多駅前の道路陥没事故の復旧工事の際にも採用されています。数年単位、それも数十億円規模のプロジェクトに関わることも珍しいことではなく、スケール感の大きな仕事に携われるのも魅力に思えます。

■貢献領域さらに広げ

入社4年目ですが、目標は大きく二つです。一つは、幅広い営業提案を行えるスペシャリストになること。二つ目は新たな販路・貢献分野を広げることです。後者は、小水力発電やため池底樋など、ハウエル管の採用が見込める新たな市場でのコネクション形成へ果敢に挑もうと思います。昨日までの発想、会社の当たり前、お客さまの期待を越えることが当グループのアクションスローガンですが、就活生の皆さんもこの心持ちを大事にしてみてください。共感できればぜひ当社に。

多くの部門のチームプレーで

月島ＪＦＥアクアソリューション
技術本部　下水事業部　水・汚泥設計部
下水エンジ１グループ
成塚　宏平さん

■水処理に関わりたくて

大学院修了後に入社して、今年で5年目を迎えます。化学工学専攻であったため、周りは化学プラントメーカーを中心に就職活動を行っていました。しかし、私自身、下水の標準活性汚泥法の代替技術として期待されている「微生物燃料電池」の研究をしていたこともあり、水処理に関わるところで働きたいという思いがありました。特に、水環境問題を解決するため、プロセスの面からアプローチできるプラントメーカーと、製品の機能の面からアプローチできる製品メーカーの二つの業種を中心に就職活動を進めました。

そうした中で、修士1年の終わりごろに出席した水環境学会で、月島機械（当時）が学生向けの企業説明会を行っており、これに参加した縁でそのまま選考に進み、当社に入社することとなりました。

■連携がキーポイント

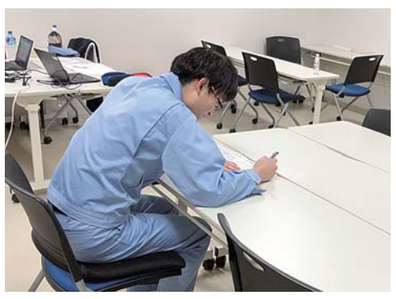
私が現在所属している下水事業部水・汚泥設計部では、官庁向けのプラント設備工事の詳細設計を行っています。設計とはいえ現場の状況を知らなくてはならないので、出張もそれなりに発生します。

1年目は研修で都内浄水場の現場を経験し、2年目は愛知県内の濃縮・脱水設備の撤去・更新工事を担当しました。初めて担当した工事ということもあり、右も左も分からず上司や先輩について回りながらでしたが、今でも思い出深い仕事です。

現在は、都内脱水設備の新設工事と、大阪市内でのDBO（デザイン・ビルド・オペレート）案件を担当しています。都内の案件では、同じ施設内の焼却炉新設工事も当社の別部門が担当しており、この部門と連携を取りながら十分な性能を確保しつつ経済的な脱水設備となるよう設計に注力しています。

大阪市内のDBO案件は、基本計画から設計・施工・維持管理までを一貫して当社が担う形であるため、自社の提案が採用される分、責任も重大です。発注者と密にコミュニケーションをとり、求められているプラントに近づけるよう業務に取り組んでいます。

また、当社のようなプラントメーカーは、案件の受注準備から始まり、基本計画、設計、必要となる機器選定、その調達、実際の現場での施工――と多くの部門がお互いの仕事を進めるために密に関わります。チームプレーの意識は常に必要ですし、社内外の方とのコミュニケーションも欠かせません。今は、対面だけでなくメールやオンライン会議システムなどさまざまなコミュニケーションツールがありますが、円滑にコミュニケーションをとるために、何を使うかではなく、「相手に理解されやすいコミュニケーションツール」を率先して使うことを優先するよう心掛けています。



■官庁向けプラントの醍醐味

民間向けのプラントメーカーの工事は規模が大きく、部門ごとに仕事を細分化することが多いため、自身の仕事の成果を感じにくいと聞いたことがあります。その点、当社のような官庁向けのプラントメーカーの工事は工事規模としても設計担当者が仕事を細分化せず、上流から下流まで幅広く関わることができます。自分で調べ考え判断したものが一つの製品としてかたどられる様を実感できる点が大きな魅力だと思います。

補修から水インフラ持続に貢献

月島ジェイテクノメンテサービス
エンジニアリング本部
大館工場　デカンタ整備グループ
佐藤　聖也さん

■水インフラを止めないために

月島ジェイテクノメンテサービスは、浄水場や下水処理場などの水関連施設の運転管理や機械の補修を主な事業としています。私は、水業界のあまり景気に左右されることなく安定しているという点に惹かれ、この業界に絞って就活をしました。当社への入社は、内部にいた高校OBの紹介で、自由闊達な雰囲気に魅力を感じて決めました。

しかしながら、安定した仕事というのは、常に必要とされる仕事、止めることが許されない仕事でもあります。事故が起きないよう老朽化対策に対応しながら水インフラの維持に貢献するという職務において、その責任の大きさも感じています。

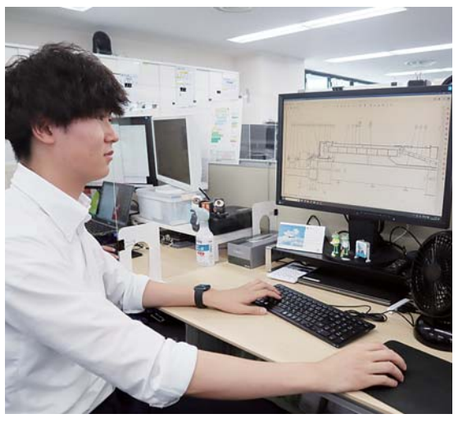
■日本全国を巡る

当社の大館工場は、汚泥処理設備の補修を行う工場です。私は入社6年目で、現在主に担当しているのは、大館工場で行うデカンタ（高速回転によって水と汚泥を分離する機械）の補修です。営業担当と共にお客さまである自治体への提案を行い、そこから工程管理、現場での施工管理、設備の運搬の管理などまで実施しています。

工程管理では、計画上の必要日数・人数に基づいて、その中でどう作業を終わらせるのかを考えます。そして施工管理では、決めた工程通りに作業が進むよう、現場での進捗管理を行います。

工事は協力会社と共同で行っており、現場にいるのは大半が年上の方です。やり取りにおいては、組織文化やジェネレーションギャップの差に注意をしながら、丁寧なコミュニケーションを心掛けています。

仕事の拠点としているのは東京にある本社で、オンラインで行える業務については本社で行っていますが、ほぼ毎週出張があり、大館工場のほか全国各地の現場で差配をしています。仕事を進める上では、遠隔地での作業が多いということもあり、特に上司との細かな連絡を心掛けています。何度も出張をする中で、各地の名物料理を食べるのが習慣になりました。



■自分の知識で

入社当初は先輩から指導を受けながら仕事をしていましたが、最近は自ら発案することが増えてきました。自分の知識を生かしてお客さまの要望に応えられた時や、自分の意見が採用された時には、大変やりがいを感じます。

当社の職場の雰囲気は、開放的な議論のもとで仕事が進んでいきます。水インフラの持続に向け、自分の知識を生かしたい方と信念を持って仕事ができたらと思います。

水と環境の創生コンサルタント
NSS 日本水工設計

5daysインターンシップ
1day仕事体験 予約受付中!
←エントリーはこちら

（公社）全国上下水道コンサルタント協会会員
日本水工設計株式会社
代表取締役社長　細洞　克己
本社：〒104-0054 東京都中央区勝どき3-12-1
TEL.03-3534-5511　FAX.03-3534-5534
https://www.n-suiko.co.jp